

# アコヤガイモニタリング調査結果

(調査日：令和5年5月19日)

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

## 1 調査結果の概要

- ・栄養の蓄積状態を示す貝柱のグリコーゲン含量は、全海域で高く、良好な状態であった。
- ・貝殻異常については、一部の貝に、昨年の感染で回復中に形成されたと考えられる段がみられたが、新たな貝肉の萎縮や真珠層の褐変個体は確認されなかった。
- ・貝柱の赤変個体は確認されず、赤変度合を示す a 値の平均値は低かった。
- ・水温は、3月中旬以降変動なく推移しており、現在は平年値に比べて1℃以上低めになっている。
- ・現在は貝に異常は確認されていないが、今後水温が20℃以上になると症状が現れてくることも考えられるので、貝の観察及び管理に注意してください。

## 2 調査結果一覧

( ) 内は昨年同月の値

漁場*1	貝の種類 (R4産)	グリコーゲン含量 平均値 (%)	a 値 平均値	赤変個体 (個)	褐変個体 出現率
北部	日中交雑貝*2	7.0(4.4)	-1.0(0.0)	0	0%
中部①	日中交雑貝	10.8(9.3)	-0.4(-0.3)	0	0%
中部②	日中交雑貝	12.3(9.0)	-0.8(-0.8)	0	0%
南部	日中交雑貝	9.6(6.8)	-1.3(-0.2)	0	0%
平均値		9.9(7.4)	-0.9(-0.3)		

\*1 漁場： 北部：三浦半島以北 中部：由良半島から三浦半島 南部：由良半島以南

\*2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

## 3 調査方法

- ・5月から11月まで月1回(概ね第3週)、各漁場・種類毎に20個を調査。
- ・サンプルは、愛媛県漁業協同組合本所宇和島事業部が、調査日2日前をめぐりに各漁場で採取して持ち込んだアコヤガイ母貝(2年貝)。

## 4 調査項目および判断指標

- ・グリコーゲン含量(%): アコヤガイの栄養蓄積状態を示す指標で、数値が高いほど良好。
- ・a 値: 閉殻筋(貝柱)の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。

赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。